

山 木 環境レポート 2020

— 2019 年度 環境保全活動報告書 —



山 木 工 業 株 式 会 社

Yamaki-ind Environmental Report 2020

CONTENTS

● <u>ごあいさつ</u>	<u>2</u>
● <u>復興に向かって・・・(江名港)</u>	<u>3</u>
● <u>復興に向かって・・・(中之作港)</u>	<u>4</u>
● <u>復興に向かって・・・(三崎防波堤)</u>	<u>5</u>
● <u>復興に向かって・・・(三崎防波堤)</u>	<u>6</u>
● <u>復興に向かって・・・(三崎防波堤)</u>	<u>7</u>
● <u>環境マネジメントシステム運用状況</u>	<u>8</u>
● <u>2020年度目標 年度部門目標</u>	<u>9</u>
● <u>2019年度の環境保全活動報告</u>	<u>11</u>
● <u>環境への今までの取組みと受賞</u>	<u>12</u>
● <u>「福島議定書」事業活動状況報告</u>	<u>19</u>
● <u>情報公開</u>	<u>20</u>



会社概要（2020年10月1日現在）

- 商 号：山木工業 株式会社
- 本 社：福島県いわき市平谷川瀬三丁目1番地の4
- 設 立：昭和 16 年（創業：昭和 16 年）
- 代表者：代表取締役 小峰 良介
- 資本金：6000 万円
- 事業内容：土木構造物、港湾構造物の設計及び施工、建築物の施工及び定期点検
- 従業員数：84名
- JQA-QM4814 認証 ISO9001 JQA-EM4716 認証 ISO14001

ごあいさつ

2021年3月11日で、東日本大震災の発生から10年が経過致します・・・
復興庁によりますと、避難者は当初の47万人から4.3万人に減少しました。(2020年8月11日現在)被災者のための恒久的な住まいとして整備が進められてきた災害公営住宅は、岩手、宮城、福島の3県で、計画戸数約3万戸が2020年度末に完成見込みであります。復興庁発足時点の2012年2月から2016年3月迄を“集中復興期間”とし、2021年3月迄を、“第一期復興・創成期間”としております。2021年度から“第二期復興・創成期間”を予定しており、福島県の復興・再生として、官民合同チームによる自立支援、「福島イノベーション・コースト構想」：2011年に発生した東日本大震災及び原子力災害によって失われた浜通り地域等の産業を回復するために、新たな産業基盤の構築を目指す国家プロジェクトです。具体的取組として①産業集積②教育・人材育成③交流人口の拡大④情報発信があり、ロボット、エネルギー、廃炉、農林水産、生活と文化を形づくるあらゆる分野において、ふくしまを前に前に進めていくための、様々なチャレンジが始まっています。

弊社が、施工致しました令和元年度校庭土壌改良工事が、いわき市立高久小学校より、教育活動の充実と向上に大いに寄与したとして「感謝状」を授与されました。また、2018年3月に竣工致しました“福島県営復興公営住宅磐崎団地(いわきCLT復興公営住宅)”が、2020年2月にNPO法人teamTimberizeより“ティンバライズ”の理念に基づき、都市木造の可能性をしめす優れた作品として、“T-1グランプリ2018”を授与されました。2020年3月に、弊社が、東双不動産管理㈱様より受注致しました東京電力㈱いわき寮及び社宅の修繕及び配管、除草・剪定工事等に於きまして、一年間無災害にて業務を施工、安全最優先の実践の賜物として感謝状を授与されました。さらに、先の令和元年台風19号被害に関する弊社の応急対策・復旧や支援活動に対して国土交通省東北地方整備局、福島県いわき建設事務所及び小名浜港湾建設事務所より感謝状を頂きました。

地震や津波、洪水、土砂崩れといった大規模災害が発生すると、多くの死傷者が出ると共に、道路や電気・ガス・水道等の各種インフラが寸断及び多くの建物にも甚大な被害が発生します。街が被ったダメージから復興するためには、建設業の力が必要とされ、災害現場では、大量の土砂・倒壊した建物の瓦礫が道路を寸断等して、消防・自衛隊等の救助車両が現場に辿り着くことすら難しいという事態も起こります。救助現場においても、土砂や樹木、大きな瓦礫などを建設業者が保有する専門の重機を使って撤去しないと捜索を進められないということもあり、災害発生直後から建設業には大きな役割が期待されているのです。災害復旧現場で途方に暮れる被災者たちの前で、必死に復興作業にあたる建設業者の作業員の姿が、被災者たちに復興に向けた大きな力を与えているのも紛れもない事実であり、弊社社員一同も、市民たちからの期待や感謝を受けて働くことで、自分の仕事に誇りを持って従事してまいります。

2020年11月1日
山木工業株式会社

復興に向かって・・・(江名港)

江名港灯台の更新工事（2019年11月13日）



いわき市の江名港に、弊社が工事を担当する紅白3基の灯台が並んでいます。
これらは 2014 年の低気圧にともなう高波で倒壊した江名港灯台の置き換え用2基と中之作港に新設する灯台用1基を仮置きしているものです。

2019年11月13日、仮置きしていた三基の中から、江名港灯台の更新工事を行いました。
海上輸送と設置には当社の250トン釣りクレーン船「第五波久登」が活躍しました。



復興に向かって・・・(中之作港)

中之作港灯台の更新工事（2019年11月16日）

2019年11月16日に行った中之作港灯台更新工事の様子です。

250トン吊りクレーン船「第五波久登」は夜明け前のまだ暗いうちから作業を開始し、江名港から中之作港まで灯台を運搬、設置しました。

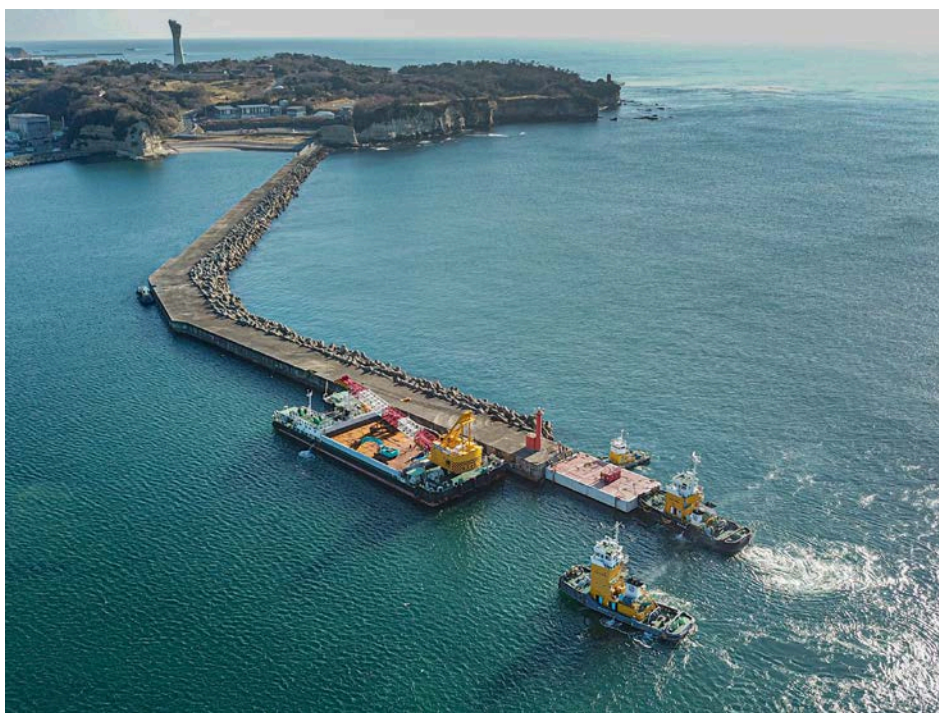


復興に向かって・・・(三崎防波堤)

三崎防波堤の延長工事（２０２０年３月）

小名浜港三崎防波堤の先端を約 100 メートル延長する工事をご紹介します。

クレーン船第五波久登が運んできた巨大なコンクリート製ケーソンを第五登龍丸と第八飛龍丸の２隻の押し船が既存防波堤の先端に据え付けているところでございます。

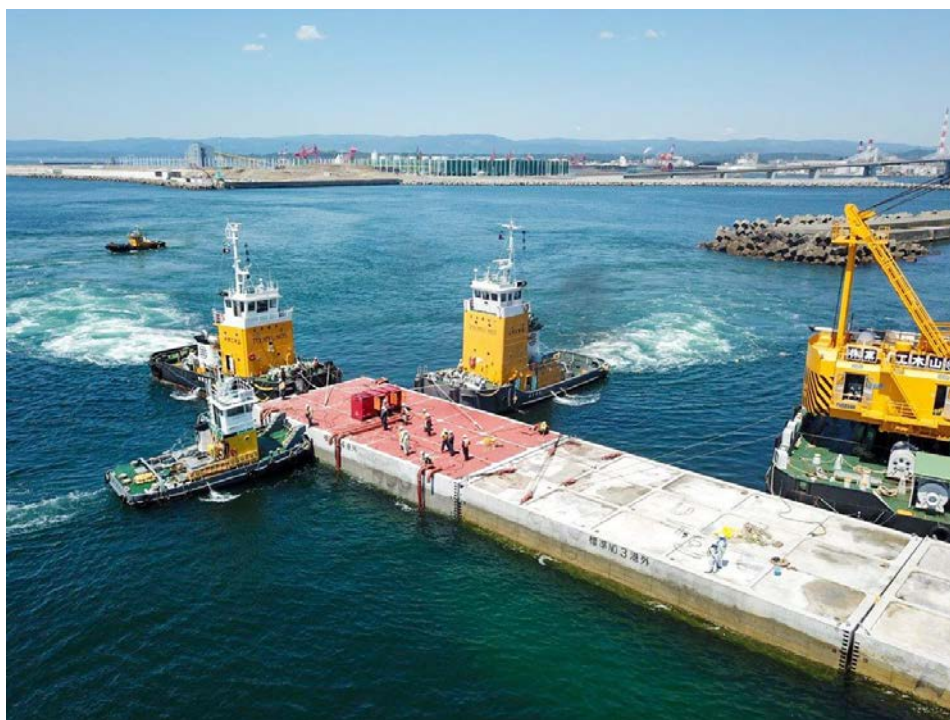


復興に向かって・・・(三崎防波堤)

三崎防波堤の延長工事その2（2020年6月）

小名浜港三崎防波堤延長工事のその後です。

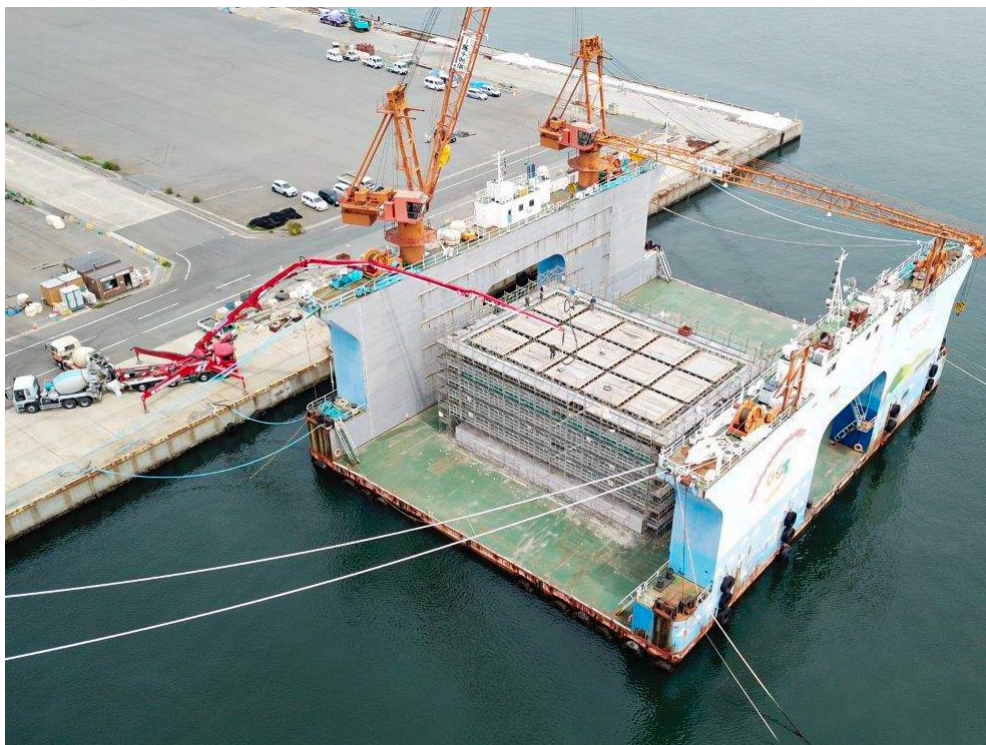
約 100 メートルの延長工事も中盤を迎え、3 函目と 4 函目を曳航・据え付けました。



復興に向かって・・・(三崎防波堤)

三崎防波堤の延長工事その3（2020年8月）

藤原埠頭の巨大なフローティングドックでは最後の5函目を製作しています。



5函目を曳航・据え付けました。



環境マネジメントシステム運用状況

●システムの運用状況および（2015年版）継続的改善

弊社では、ISO14001に取り組んでおり、2005年4月に認証を取得、継続して維持しています。

2013年度より、品質・環境システムの統合マニュアルを作成・運用を開始、2016年4月に、規格改定（2015年度版）への移行を完了致しました。

それに伴い、統合マニュアルの改訂検討、業務効率化（重複及び不要様式の削除・見直し）及び本来業務（環境側面・品質含）の評価／検討を併せて継続実施してまいります。



登録証番号：
JQA-QM4814
JQA-EM4716

●内部監査

弊社では、システムの運用を開始した2004年度より環境の☆内部監査を実施しています。

2019年度は内部監査年間計画に基づき、2019年8月、11月、12月、2020年7月、8月、9月に実施しました。

●外部審査

システムの統合化の一環として、2020年9月に、審査登録機関（一財）日本品質保証機構による品質・環境：2015年版☆複合定期審査を受審しております。

●マネジメントレビュー

2019年度は2020年6月に、トップマネジメント（社長）によるマネジメントレビューを実施し、システムの継続的改善を行っております。

●品質・環境委員会

毎月下旬に定例の「品質・環境委員会」を部門長以上対象に実施しており、会社全体の品質や環境マネジメントについての意見交換や情報共有等を行っております。

●環境教育

◇現場教育

現場事務所において、環境マネジメントシステムの教育を実施しております。

作業所の新規入場者教育や安全衛生協議会等で、実務に必要な環境教育（省エネ運転・緊急事態対応教育含）をシート等使用して、実施しております。



2020年度目標

2020年度目標

地域振興に努める

地域貢献

品質確保

環境負荷低減

山木工業株式会社



年度部門目標

環境マネジメントシステムの取組みの中で、各部門目標を設定し、その達成に向けて環境保全・品質活動を推進してまいりました。

2019年度の活動結果は下表のとおりです。

部門目標は、全部門☆達成でした。

2014年度より、環境目標を従来の品質目標と合わせて設定致しました。

● 2019年度の活動結果（目標達成状況）と2020年度の目標値

【評価凡例】 ☆：目標達成 ★：目標未達成

・総務部

2019年度目標	2020年度目標
① （社外資格取得）施工管理技士 1・2級：1名以上：☆100%	② （社外資格取得）施工管理技士 1・2級：1名以上：100%
① （緊急事態対応：大地震等） 安否確認システム運用訓練・確認：☆100%	② （緊急事態対応：大地震等） 安否確認システム運用訓練・改善：100%

・営業部

2019年度目標	2020年度目標
① （企業活動：地域社会貢献） 年度受注目標：☆110%	① （企業活動：地域社会貢献） 年度受注目標：100%

・土木工事部・小名浜工事事務所・建築工事部

2019年度目標	2020年度目標
①（品質：評価点合格件数） 目標値：☆100%	①（品質：評価点合格件数） 目標値：100%
②（安全：休業4日以上労災0件） 目標値：☆100%	②（安全：休業4日以上労災0件） 目標値：0件
③（工期：工期内完成件数） 目標値：☆100%	③（工期：工期内完成件数） 目標値：100%
④（予算：予算内達成件数） 目標値：☆100%	④（予算：予算内達成件数） 目標値：100%

2020年度部門目標

総合評価率100%達成！



2020年度部門目標

総合評価率100%達成！



2020年度部門目標

総合評価率100%達成！



2020年度部門目標

・受注目標額を達成する。



2019年度の環境保全活動報告

1. 地球温暖化防止対策

地球温暖化防止への主な取り組み

- 建設発生土等の排出量及び搬送距離の削減
- アイドリングストップ及び省燃費運転の促進
- 重機・車両の適正整備点検実施
- 建設現場や事務所での省エネルギー活動の推進

2. 建設副産物対策・リサイクル

- 建設廃棄物の処理状況

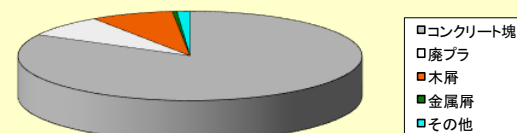
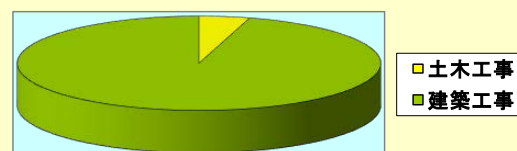
◇建設廃棄物の総排出量

2019年度の建設廃棄物総排出量は、244t。
内訳は、土木工事（港湾工事含）が11t、
建築工事が233t。

◇廃棄物の種類別排出状況

2019年度の建設廃棄物の種類別排出量（全体）
は、コンクリート塊83%、（木屑、廃プラ、金属屑、その他）17%。

産業廃棄物排出量



- 再生資源利用促進

◇再生資源の利用促進

建設リサイクル法により再資源化が義務づけられている特定建設資材廃棄物（コンクリート、鉄筋コンクリート、アスファルト・コンクリート、建設発生木材）の再資源化を徹底するとともに、再生資源の利用促進に努めます。

※ 再生資源の利用促進とは、

建設副産物を現場内で再利用することです。

再資源化施設に運んで再生資源として利用することです。

環境への今までの取組みと受賞

みんなでエコチャレンジ家庭版への参加

2020年度 復興ふくしまエコ大作戦！

地球温暖化防止のためには温室効果ガス総排出量の約2割を占める家庭からの排出削減が不可欠です。この作戦は、削減量目標を一世帯あたりに排出されるCO₂の1%以上、1年間の削減量を森の木5本分としました。森の木5本分のCO₂削減を目指して、家庭で簡単に取り組むことができる省エネ活動を実践します。弊社におきまして、「みんなでエコチャレンジ家庭版」を従業員全員に配付周知致しました。参加して、家庭での地球温暖化対策に取り組みます。



ふくしまエコチャレンジ事業原資提供への応援

“ふくしまエコチャレンジ事業”は、地球温暖化の防止に向けて、子どもたちが福島議定書を通じて自主的に取り組む節電及び節水活動や、県内の団体が取り組む地球温暖化防止活動に応じたポイントを付与し、環境活動に使用する物品等と交換することで、活動の一層の促進を図る事業です。弊社では、2020年度原資提供に協力致しました。



エコキャップ運動に参加（重点分野：プラスチックごみ対策）

（目標：エコキャップ運動に積極的参加）

現在、ペットボトルは、年間約250億本が生産され回収率は62%、再資源化率は37%で完全再資源化には、ほど遠い状況となっており、再資源化を促進するには、ペットボトルからキャップを外し、ラベルをはがすといった分別が大事です。日常生活のなかで頻繁に利用されているペットボトルのキャップを、一般のゴミに混ぜてしまうと、焼却処分されCO₂の発生源になり、また埋め立て処分されると土壌を汚染し地球環境を破壊する事になります。

エコキャップ運動とはペットボトルのキャップを、環境、資源、福祉といったテーマに、どなたでも簡単に参加でき、社会貢献できる取り組みです。地球温暖化の進行が心配されているなかで、ボトルキャップを分別回収することにより再資源化を促進し、CO₂の発生を抑制できるエコキャップ運動に弊社も、賛同して参加しております。



「いわき市役所生活環境部環境企画課」来社（2019年12月19日）



2019年12月19日 いわき市役所生活環境部環境企画課 環境企画係鈴木主査、吉田主査様が弊社の“環境の取り組み”を参考にしたいと来社致しました。弊社では、執行役員草野総務部長及び与田室長が対応致しました。

いわき市では、環境が限られた資源であることを深く認識し、市民、事業者及び市町村が相互に協力し合い、環境への負荷の少ない持続的な発展が可能な社会を構築し、人と自然とが健全に共生できる“ふるさと「いわき」”の実現を目指しております。

「福島県建設業新分野進出企業認定証書」授与（2019年12月23日）

福島県 建設業新分野進出企業認定証書

企業の名称 **山本工業株式会社**

所在地 **いわき市平谷川原五丁目1番地の4**

福島県建設業新分野進出企業認定事業実施要綱第6条第1項の規定により、上記企業を福島県建設業新分野進出企業として認定します。

認定番号 第172号

認定年月日 令和元年12月16日

進出年度 平成30年度（平成30年8月）

事業内容 **省エネ建材・建設資材
（蓄光式建設資材）の販売**

福島県知事 内堀雅雄



福島県では、当該建設企業の新分野進出事業に対する自己研鑽意欲の向上と、他の建設企業の新分野進出に対する取組み意欲を喚起し、地域経済の活性化と雇用の確保を図ることを目的に、新分野進出を果たした建設業者への認定を平成20年度より実施しております。

いわき建設事務所にて、令和元年度認定基準を満たした事業として認定されました。認定事業内容としては、弊社が、2018年6月28日に、コドモエナジー株式会社様と販売代理店契約を締結した“ルナウェア”の販売であります。

ルナウェアとは、400年の歴史を持つ有田焼と蓄光機能の融合で、世界初の省エネ建材です。耐熱性・耐水性に優れ、電気を使わず自然エネルギーを循環利用した安全性を備えているため、災害時やエコ商品として幅広く活躍する注目素材です。



安全講習会実施（熱中症対策等）（2020年7月13日、16日）

（適応分野：気候変動適応策）（目標：熱中症ゼロを目指す。）

弊社3F大会議室において、全社員を対象に“熱中症対策”教育の一環として、安全講習会が実施されました。建設業は業態として日中、炎天下の高温多湿な場所で作業することが避けられないために、熱中症による死亡者数約半数を占めています。熱中症の発生は、7月と8月に多発しますが、適切な処置を怠り、手遅れになると死に至る場合もあります。正しい知識と対策による予防が可能で、“管理者による適切な作業管理、作業員自身による健康管理”が重要なポイントです。



エコドライブ講習会実施（2020年10月21日）

弊社3F大会議室において、“地球とお財布にやさしい運転”を学ぶエコドライブ講習会を実施しました。講師として一般社団法人日本自動車連盟福島支部事業課課長田代秀之氏にご講演頂きました。走行パターンごとのエコドライブのポイントは、次のとおりです。

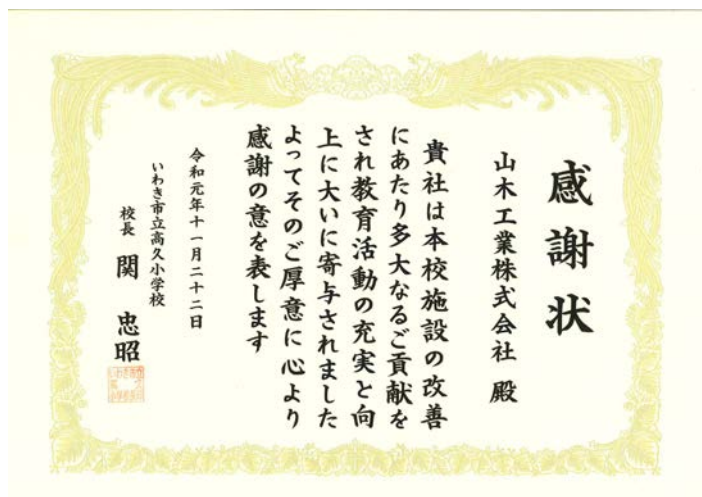
- ・発進時：発進は一呼吸おいて、それからアクセルを徐々に踏み込みましょう。
- ・走行時：先の状況をよく見て、アクセル一定で走行しましょう。
- ・減速時：停止位置を予測して、早めにアクセルOFFを。
- ・停車時：人を待つ間などは、アイドリングストップに。

以上のポイントに留意しながら安全運転に努めます。



「感謝状」受賞（2019年11月22日）

弊社が施工した令和元年度校庭土壌改良工事が、いわき市立高久小学校より、教育活動の充実と向上に大いに寄与したとして表彰されました。



長年、雑草に悩まされてきた校庭が見事に復活！ 本来なら、到底不可能なわずかな予算で・・・本当にありがとうございました！



いわき市立高久小学校



「T-1 グランプリ」授賞（2020年2月10日）



作品名
いわき CLT 復興公営住宅

受賞者
ふくしま CLT 木造建築研究会（木あみ）
株式会社白井設計 / 株式会社邑建築事務所
株式会社日本システム設計
+ 芝浦工業大学 青島啓太

「いわき CLT 復興公営住宅」は、ティンバライズの理念に基づき、都市木造の可能性をしめす優れた作品として認められました。その功績をたたえ、T-1 グランプリ 2018 を授与します。

2020年2月10日
NPO 法人 team Timberize
理事長 藤原 幹雄

弊社が施工した福島県営復興公営住宅磐崎団地（いわきCLT復興公営住宅）が、NPO 法人 team Timberize より“ティンバライズ”の理念に基づき、都市木造の可能性をしめす優れた作品として認められました。その功績をたたえ、T-1 グランプリ2018を授与されました。

※木というと英語で<wood>が思いつきますが、丸太は<log>、人の手によって加工された材木とか製材は、<timber>と呼ばれています。timberize は「timber」から考え出された造語です。

※T-1 グランプリは毎年「都市木造の未来・可能性を見せてくれる建築」という観点から際だって優れた作品の設計者に贈られます。

選考は、公募及び建築雑誌に掲載される作品を対象として、teamTimberize から選出される T-1 グランプリ選考委員会が行います。

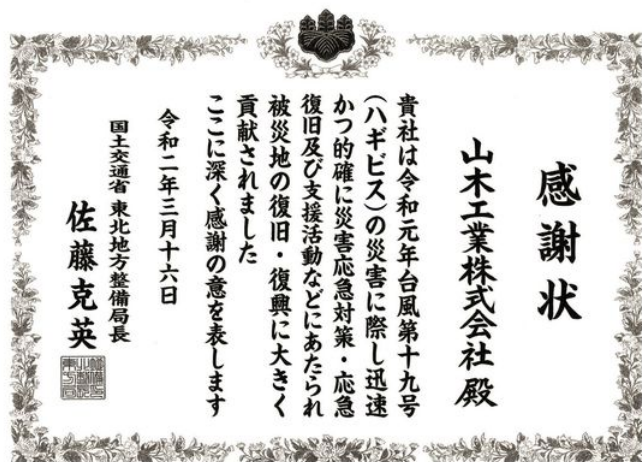
「感謝状」受賞（2020年3月18日）



弊社は、東双不動産管理(株)様より受注致しました東京電力(株)いわき寮及び社宅の修繕及び配管、除草・剪定工事等に於きまして、一年間無災害にて業務を施工致しました。安全最優先の実践の賜物として感謝状を授与されました。



「感謝状」受賞（2020年3月16日）



先の令和元年台風 19 号被害に関する弊社の
応急対策・復旧や支援活動に対して国土交通
省東北地方整備局より感謝状を頂きました。
写真は49号線の応急復旧作業の様子です。
これからも地域の災害復旧要請に迅速に応え
られるよう務めて参ります。



「感謝状」受賞（2020年3月31日）



国土交通省からの感謝状に続いて、3月31日には福島県いわき建設事務所と小名浜港湾建設事務所から、台風19号応急復旧作業等への感謝状を頂きました。写真はいわき市を流れる新川の堤防決壊箇所における応急復旧作業の様子です。弊社は今後も災害時の復旧要請や暴風波浪時のパトロール・初期対応に迅速に応えられるよう務めます。



コロナ禍の中での「福島議定書」事業活動状況報告

「環境負荷低減」及び「社会貢献」活動継続の実施

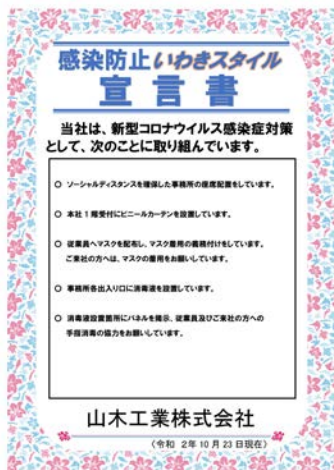
ISO 推進室 室長 与田 裕

2020年度「福島議定書」事業所版（運輸・設備業・その他部門）における弊社の活動状況をご報告いたします。「福島議定書」には、開始当初の2006年度より参加しており、弊社従業員においては「紙・ゴミ・電気」から始まり、環境に対する意識は浸透しております。

弊社の活動は、●ゼロエミッション（廃棄物ゼロ）①事務所内ゴミ分別徹底による再生化②コピー用紙裏面使用徹底化③古紙リサイクル業者に回収委託④文書電子化の実施（営業部）によるコピー用紙削減⑤社内ポスター啓発活動（環境負荷低減活動等促進）⑥社内業務用エアコン簡易点検実施⑦「みんなでエコチャレンジ家庭版」参加⑧「ふくしまエコチャレンジ事業」原資提供への応援●社会貢献活動①エコキャップ運動に参加：エコキャップ推進協会②いわき市水源保全協力者登録③小学校への「図書カード」寄贈④献血活動参加⑤道の日「クリーン作戦」ゴミ拾い：2020年8月11日（15名）参加。●特記事項①環境レポート2020作成及びホームページにて公表②「エコドライブ」講習会開催③「ノーカーDAY」実施：2020年9月5日・ウォーキング通勤実施（自転車含む）④フッ素処理剤「ネオフィット」販売⑤省エネ建材「ルナウェア」販売。



前述の従来の活動（緩和分野：CO2 排出削減）に加えて、（適応分野：気候変動適応策）（目標：熱中症ゼロを目指す）対策として、①各種“熱中症対策グッズ・用品”の購入②各作業所での教育実施（安全協議会等）③気象情報の入手④作業現場の環境改善⑤休憩場所の整備⑥水分・塩分の摂取⑦作業中の巡視等があります。また、（重点分野：プラスチックごみ対策）（目標：エコキャップ運動に積極的参加）対策として、①エコキャップ専用回収器を本社、小名浜工事事務所、49号線維持工事現場事務所に常時設置②廃プラスチック回収業者に委託③廃プラスチック類（リサイクル可能）高炉還元剤、セメント原料、RPF原料等を適切に分別して回収業者に委託④マイエコバック使用（レジ袋削減）⑤マイ“箸・ボトル”使用⑥紙製クリアファイルの使用等があります。



弊社におきましては、新型コロナウイルス感染拡大防止と市民の皆さまへの安心のため、「感染防止いわきスタイル宣言書」に協力、弊社事務所に掲示しております。内閣官房ホームページにアクセスし、感染拡大防止チェックリストを確認①ソーシャルディスタンスの確保（2m以上（最低1m））②従業員及び来客等の保健衛生対策の徹底③共用物の衛生管理・換気の徹底④感染が発生した際の利用者への情報提供等に注意して活動致します。未だ収束しないコロナ禍の中、今後も弊社としましては、「環境負荷低減」「社会貢献」を継続して実施、微力ながら社会の一助になるように活動して参ります。

情報公開

●環境法規制の遵守状況

環境法規制、条例等に関する最新情報を国、地方自治体及びインターネット、各協会より随時入手確認しております。

改正情報の詳細を「環境法規制及びその他要求事項一覧表」に記載追加後、各部門・現場代理人に配布しております。

環境法規制及びその他要求事項の順守状況について、各プロジェクトは、終了後確認実施。

各部門については、☆内部監査（年2回）を定期的を実施し、且つ年度末に確認実施。

その結果、2019年度の環境法規制に対する違反は0件でした。

●ホームページ

弊社の環境保全に対する取組みをホームページ上で紹介しています。

ホームページ：<http://www.yamakiind.jp/>

発 行： 山木工業 株式会社

本 社 〒970-8036 福島県いわき市平谷川瀬三丁目1番地の4

TEL : 0246-23-1301（代表）

FAX : 0246-23-1475

お問合せ先： ISO 推進室

TEL : 0246-23-1302

E-mail : h-yoda@yamaki-ind.co.jp

・献血活動参加（2020年11月11日）

